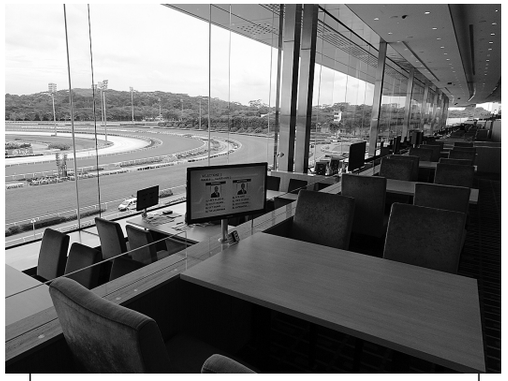
世界旅打ち気分

●第21・クランジとブキティマ

須田鷹雄

写真のカラー版は
https://www.instagram.com/sudatakaoshoten/の
#グリーンファーム会報#2020年1月号
でご覧いただけます



クランジ競馬場の3階席。馬主調教師の予約札が無い席を自由に選んで座る。

ターフシティ(旧ブキティマ競馬場)の表彰台跡と、転用されているスタンド。

クランジ競馬場のパドック風景。1階と2階は入場料のみで入れるエリア。

https://www.instagram.com/sudatakaoshoten/

今回はシンガポールの競馬についてご紹介しよう。

シンガポールで競馬開催が行われている競馬場は1場だけ。クランジ競馬場である。クランジは地名で、地下鉄(地上部分を走っているが)の最寄り駅もクランジである。

開催は金曜のナイターと日曜のデイ開催が基本。その他にオーストラリア、香港、マレーシアなどのサイマル受け発売をしており、一部の海外競馬とはコミングリング(プールを統一してオッズも)も行っている。

この競馬場ができたのは約20年前の1999年。もともとはより市内に近いブキティマというところに競馬場があったのだが、立ち退き命令を受けて郊外に引っ越すことになった。スタンド自体が新築してまだ20年、リフォームもそれなりに行われているのでかなりきれいな競馬場だ。

交通については、一番安い手段となると地下鉄だが、山手線のようなぐるっと回る環状線の北側にあるため、市内からはそれなりに時間がかかる。シンガポールはタクシーが安い国なので、タクシーで行ってしまうほうが楽だ。

ただ、市内からクランジは乗車拒否されることもあり(帰りに客を乗せられないとロスになるので)、競馬のあとはどれだけタクシー会社に電話しても(英語を話せなくても番号を押すだけで配車依頼できる先がある)、なかなか車は来ない。ただ近年は配車アプリのGrabが登場してこの点が改善されている。GrabはUberと同じような登録されている一般車をタクシーがわりに使えるアプリで、Grabの場合はタクシー会社の車を指定して配車依頼することもできる。タイなどもそうだがアジアの一部ではUberがシェアを取れずGrabに事業を譲渡したので、競馬だけでなく観光にはこのアプリが力を発揮する。

競馬場でレースを見る際、選択肢は実質的に2つ。まずは安いグランドスタンド。現金だと入場料8シンガポールドル、日本のSuicaのようなEZ-Linkというカードで支払うと6シンガポールドルだ(価格は19年12月現在、以下同様)。

もうひとつの選択肢はオーナーズラウンジと共同の3階で、30シンガポールドルを支払えば入れる。また、あまり利用している人を見たことはないが2人で118ドル払うとコース料理付きになるというパッケージもある。ただしこちらのフロアはシンガポールダービーなどいくつかの大レース時には一般客は入れない。席も自由席だが、よほど混む日でなければどこかしらのテーブルは確保できる。

以前だと3階はオーナーしか使えず、2階に「@ハイビスカス」という席があって外国人観光客はそこを使うことができた。ところがカジノとの競争が生まれたあとに競馬の売り上げが下がり、もろもろの経費節減策がとられた結果、2階はクローズされてしまった。筆者は3階を使いたいためにシンガポールの馬主資格もとったのだが(馬は10%共有だけ)、誰でもオーナーズラウンジを使えるようになってしまったため、いまではすっかりありがたみがなくなってしまった。

シンガポールの競馬は潰れるかどうかまではいっていないものの昔に比べるとかなり寂しくなっており、たとえばタクシー乗り場から入場口までの間にあった競馬新聞売り場もなくなってしまった。オーナーズラウンジに入る人には1部が与えられるが、一般入場者は北面と南面に分かれている1階の、南面のほうにある売店を見つけなければならない。

1階が北面と南面に分かれているのは、その間をパドックから本馬場に向かう馬道が走っているからだ。馬が通らないときは往来できるのだが、通る前後の時間帯は閉じられる。その間は上スカレーターでいったん2階に上がることになり、その2階にはギフトショップがある。日本人が大好きな競馬場のギフトショップだが正直品揃えはヘボく(特定の馬のグッズなどはない)、最近は開店していない日も多い。

心躍らない情報ばかりを書いてしまっているが、食べ物はけっこう良い。3Fを使う場合モニター付きの広いテーブルがあり、オーダーを取りにくるおばちゃんに頼めば食事も、アルコール類も自分の席で楽しむことができる。筆者は下戸なのでオーダーしたことはないが、タワー型とでも言うべき大型ビールサーバーもオーダーすることができるので、飲める人はぜひトライしていただきたい。

1階の一般席も食べ物は良い。北面・南面のそれぞれ端にホーカーズ(屋台村の店舗バージョンのような、シンガポール独特の業態)の小さいバージョンがあり、ラクサやハイナンチキンライスなど、シンガポールのローカルフードを楽しむことができる。

この1階席は外ラチ沿いまで行けるので、臨場感を求める人にはガラス張りになってしまう3階よりもかえっておすすめだ。外はどうしても蒸し暑いが建物の中は空調も入っているし、パドックを見るときも3階より1階のほうが便利ではある。スタンドの外にある椅子は日本のように席取りなどもされておらず、一般開催のときなら座れる場所もある。ただシンガポールはにわか雨がよく降るので、その点だけはネックだ。

クランジで馬券を買うとき注意したいのが、馬券の発売単位。単複は5ドル単位、連勝系は2ドル単位で、オッズ表示もそれぞれも単価に応じたものとなる(34と書いてあったら単複だと6.8倍、連勝式だと17倍)。またマークカードもドルではなくユニット数を塗ることになり、たとえば5のところを塗ったら単複だと25ドル、連勝式だと10ドルずつ買うことになる。こればかりは慣れていただくしかない。

さて、シンガポールに行ったらクランジはもちろん、旧ブキティマ競馬場跡も訪れてみていただきたい。廃止後は更地になったわけではなく、競馬場のスタンドをそのまま使った「ターフシティ」という商業施設になっている。コースのほうはサッカー場などになっていてだいぶ潰されているが、それでも外ラチの一部と表彰台跡は残っている。スタンドはスーパーマーケットやレストラン、各種小売店などが入っているほか、上の階には託児所やオフィスなどが入っており、テナントビルのようになっている。さらに厩舎地区は乗馬クラブのほか、ヨガスタジオなどに活用されていて、こちらも往時の面影はある。

このターフシティ、一時はだいぶ廃れていたのが運営業者交代で持ち直し、しかしまた最近寂しくなってきている。いつどうなるかわからないのでイクならいまのうち。おすすめは2階に阿一海鮮という中華レストラン。ブキティマ時代の馬主席エリアが転用されているようで、いまでも店内には競馬場時代の雰囲気がある。